＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉖ー天の聖所と幕屋』　武田真治

レビ記　１６：３２～３４　ヘブライ書　９：１～１４

今日の箇所の９章の１節は「さて、最初の契約にも、礼拝の規定と地上の聖所とがありました。」と始まります。ここで注目べきは「契約にも」の「も」です。これは“今の新しい契約”にも「礼拝の規定と地上の聖所とがある」ということが前提となっているのです。そして両社の違いを示そうとしているのです。古い契約では「第一の幕屋が設けられ、この幕屋が聖所と呼ばれるものです。また、第二の垂れ幕の後ろには、至聖所と呼ばれる幕屋がありました」と。つまり、聖所と至聖所の二つがあり、そして「祭司たちは礼拝を行うために、いつも第一の幕屋に入ります」とあるように、通常の礼拝はもっぱら聖所で行われていたと。至聖所は「第二の幕屋には年に一度、大祭司だけが入り」「自分自身のためと民の過失のために」その罪の赦しを願う儀式を献げるためだけに存在していたと。これが今でもユダヤ教で（神殿が無いので形は変わりましたが）行われている《ヨム・キプール》という９月の１０日頃に行われる儀式です。これはユダヤ民族（＝元々はイスラエルの民）全員の一年間の罪を神様に赦してもらうために献げる儀式です。その罪を赦してもらうためには「雄山羊」を殺して（＝ここからスケープ・ゴート、犠牲になった存在という言葉が生まれました！）、その血を至聖所の中にある「金で覆われた契約の箱」に注ぎかけたのでした。この儀式を行うために大祭司は一年間ずっと清い生活を為したのでした。しかし、それで民の罪がすべて赦されたのでしょうか？　本当にこの儀式で罪が赦されたなら「新しい契約」を神様が用意為さる必要がなかったはずです。

まさにだからこそ「キリストは恵みの大祭司として、ご自身の血によって、ただ一度聖所に入って永遠の贖いを成し遂げられた」のでした。この出来事こそ“主の十字架”でした。マタイ福音書 27 章 50 節以下で「イエスは再び大声で叫び、息を引き取られた。そのとき、神殿の垂れ幕が上から下まで真っ二つに裂け、地震が起こり」と言われている“垂れ幕”こそ、以上の聖所と至聖所を隔てていた垂れ幕のことです。イエス様はその幕を引き裂かれて至聖所に入られ、自らの血を献げられたことを意味していると言い得ます！まさに至聖所を“開放”されたのでした。もう罪の贖いの儀式はすべて終わった、もはやスケープ・ゴートは必要ないと。

ですから今の私たちに残されているのは、礼拝を行うための第一の幕地＝地上の教会だけなのです。この地上の教会を通して神様を教えられ、礼拝し、いつか時が来たら、この地上の教会を通過して、天にあるイエス様がそこで待っていてくださる《天の教会》へと入っていくことが待っているのです。私たちにとっての大祭司イエス様が天の聖所へ通う道を造ってくださったのですから、私たちすべての者がイエス様によって天の聖所へと招かれるのです（＝万人祭司）。だから安心しなさいと。なんと素晴らしい約束＝恵みでしょう！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．９月 28 日（水）20：00
Ⅱ．９月 29 日（木）10：30

聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　世界聖餐日　10/2 を覚えて
担 当 者：　（水）相浦　　（木）木村
祈 る 人：　丸茂さん　　水澤さん
ひつじ雲の会：９月 27 日(火)13:30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男　18　　女　47　　計　65
祈祷会　Ⅰ．男６　女２　計８　　Ⅱ．男３　女 12　　計 15
日曜学校　　休 校

【次週礼拝】　　１０月　　２日（日）

聖　書：　出エジプト記　２４：３～１１
ヘブライ人への手紙　９：１５～２８
説　教：　「ヘブライ㉗ ―遺言が効力を持つ時」
武田 真治 牧師
讃美歌：２０８(1)、３２(1)、４２５(1と５と６)、

【次週当番表】　　３０１（1と3）、８３(1)

司式:茨木長老　　奏楽:勝村　　礼拝:岩佐長老
献金：ノ　羽倉　　受付：西尾　森本
会堂準備：浅井　阿部　齋藤　山田
看板：保坂　　週報：岩佐　　お花：森本

【次週集会予定】礼拝前：・求道者会　　・聖書輪読会
礼拝後：長老会　会堂管理委員会　・聖歌隊練習

６３－３９

週　報

2022 年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　９月　２５日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/